

## BOOK REVIEW

石川重太郎『続・経営者の条件』北羽新報社、1995年。

木都と呼ばれた秋田県能代市（人口 53,000 人）で、特に地元の木材業者の経営アドバイザーとして、また、税理士として一生を捧げた石川重太郎氏（1917–2008 年）による論稿記事（北羽新報紙）の集大成の書である。

客観的なデータに基づき、木材業界だけでなく、住宅業界、消費者マインドなどのマクロ分析も駆使し、バリューチェーンの概念から、マネーゲーム化する金融経済への苦言まで、税理士の業務領域を遥かに超えた広い視野から論じている。

そして、企業観については、「私の企業観は、企業はいかなる時代を通じて終始一貫して、企業は人のために存在するものであり、企業は人間本位に存在すべきものとする哲学である」の一言に凝縮される。近年は中小企業の事業承継問題の解決を行政の支援施策に依存する傾向が強いが、著者は「(そもそも事業承継問題は後継者たらんとする者の人間性にその本質があり、) 後継者には傲慢とは逆の謙虚さと温かい人間味が求められる」と断ずる。

200 頁に及ぶ本書を読み解くにつれ、税理士としてだけでなく、人として、大先輩である著者のお話を拝聴する機会をもてなかったことが悔まれてならない。

